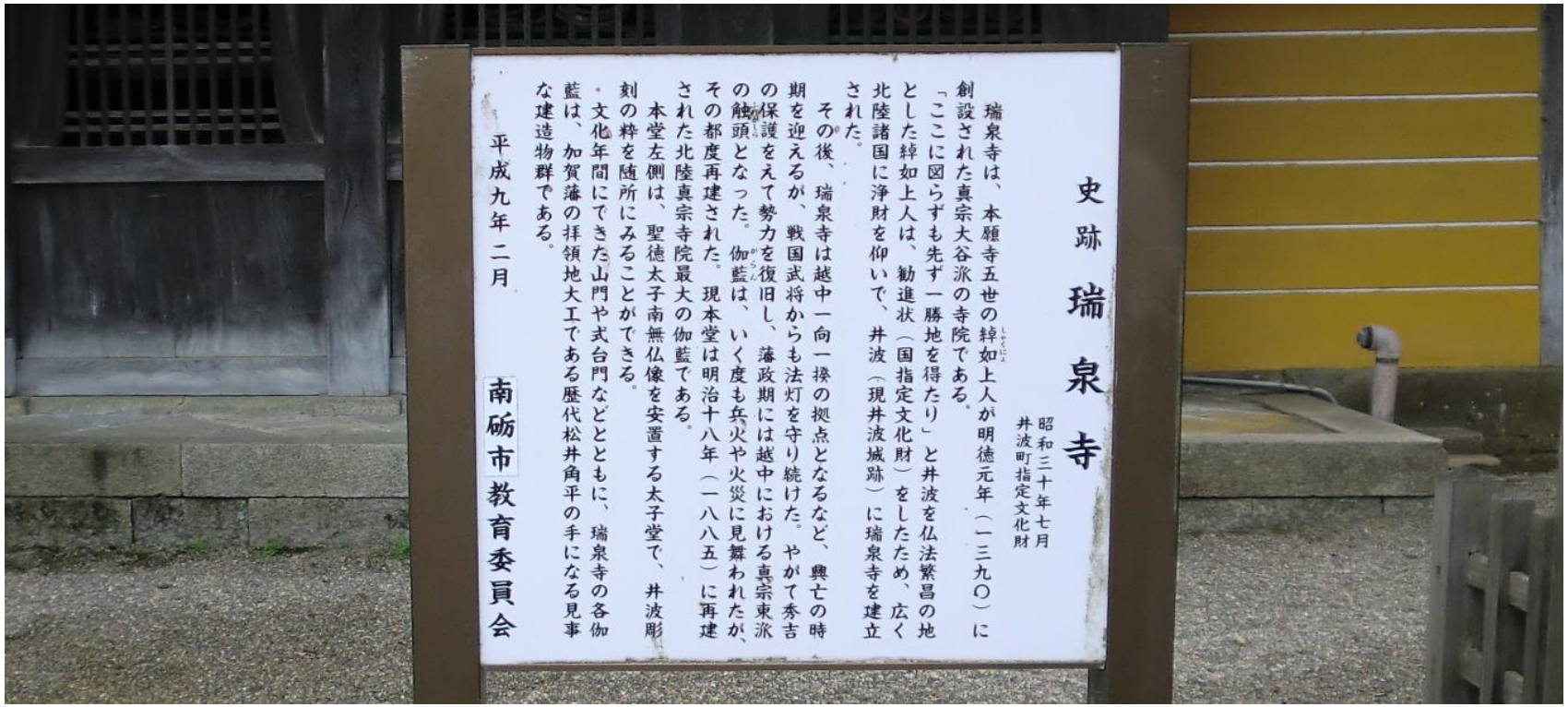
瑞泉寺（富山県南砺市）

瑞泉寺伽藍　編

正面が真宗大谷派井波別院瑞泉寺の高岡門

高岡門



史跡 瑞泉寺

昭和三十年七月
井波町指定文化財

瑞泉寺は、本願寺五世の綽如上人が明徳元年（一三九〇）に創設された真宗大谷派の寺院である。

「ここに図らずも先ず一勝地を得たり」と井波を仏法繁昌の地とした綽如上人は、勧進状（国指定文化財）をしたため、広く北陸諸国に浄財を仰いで、井波（現井波城跡）に瑞泉寺を建立された。

その後、瑞泉寺は越中一向一揆の拠点となるなど、興亡の時期を迎えるが、戦国武将からも法灯を守り続けた。やがて秀吉の保護をえて勢力を復旧し、藩政期には越中における真宗東派の触頭となった。伽藍は、いく度も兵火や火災に見舞われたが、その都度再建された。現本堂は明治十八年（一八八五）に再建された北陸真宗寺院最大の伽藍である。

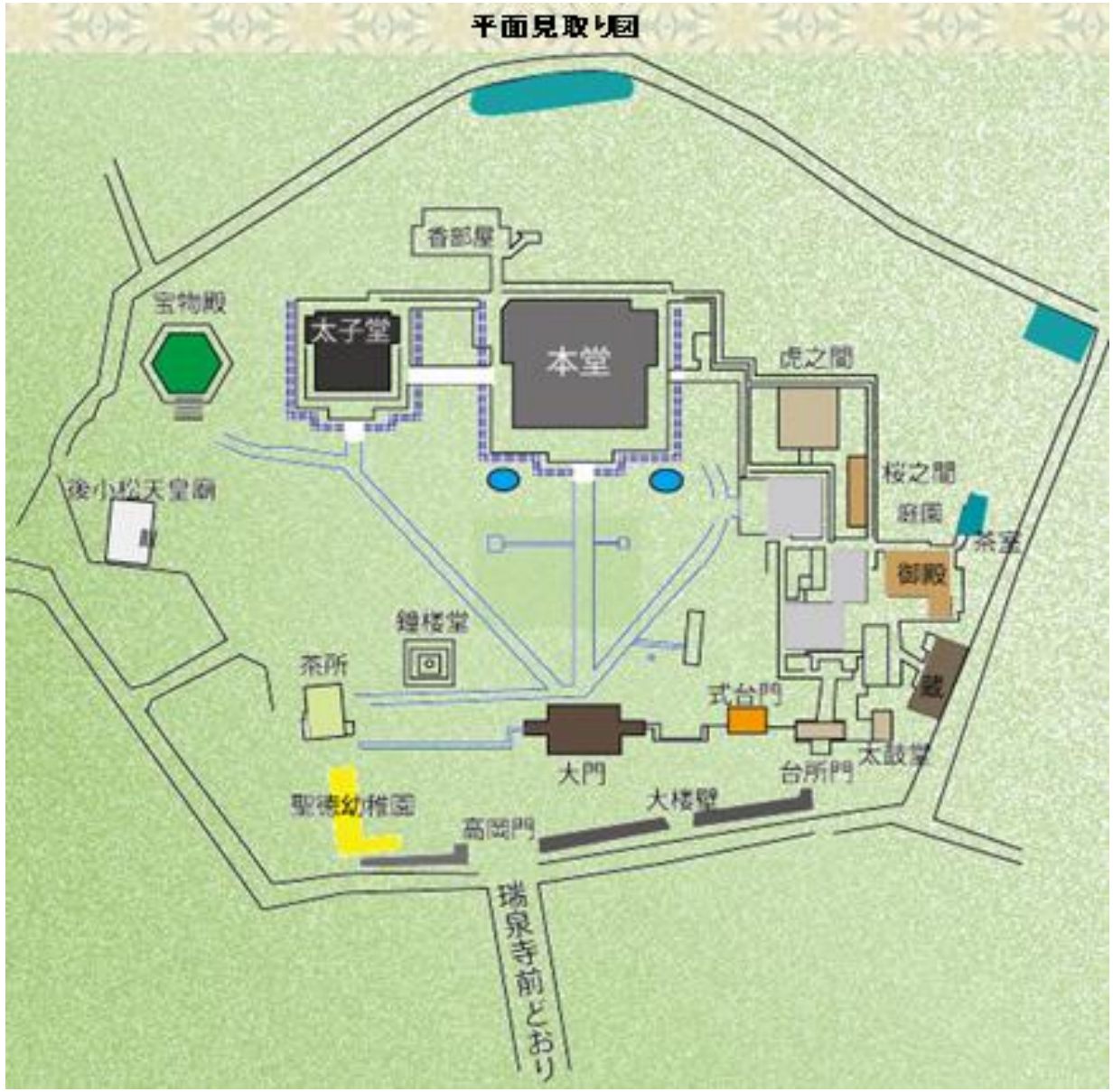
本堂左側は、聖徳太子南無仏像を安置する太子堂で、井波彫刻の粋を随所にみることができる。

文化年間にできた山門や式台門などとともに、瑞泉寺の各伽藍は、加賀藩の拝領地大工である歴代松井角平の手になる見事な建造物群である。

平成九年二月

南砺市教育委員会

開山
瑞泉寺


平面見取り図
香部屋
宝物殿
太子堂
本堂
虎之間
桜之間
庭園
茶室
御殿
後小松天皇廟
鐘楼堂
茶所
式台門
大門
台所門
太鼓堂
聖徳幼稚園
高麗門
大楼壁
瑞泉寺前とおり

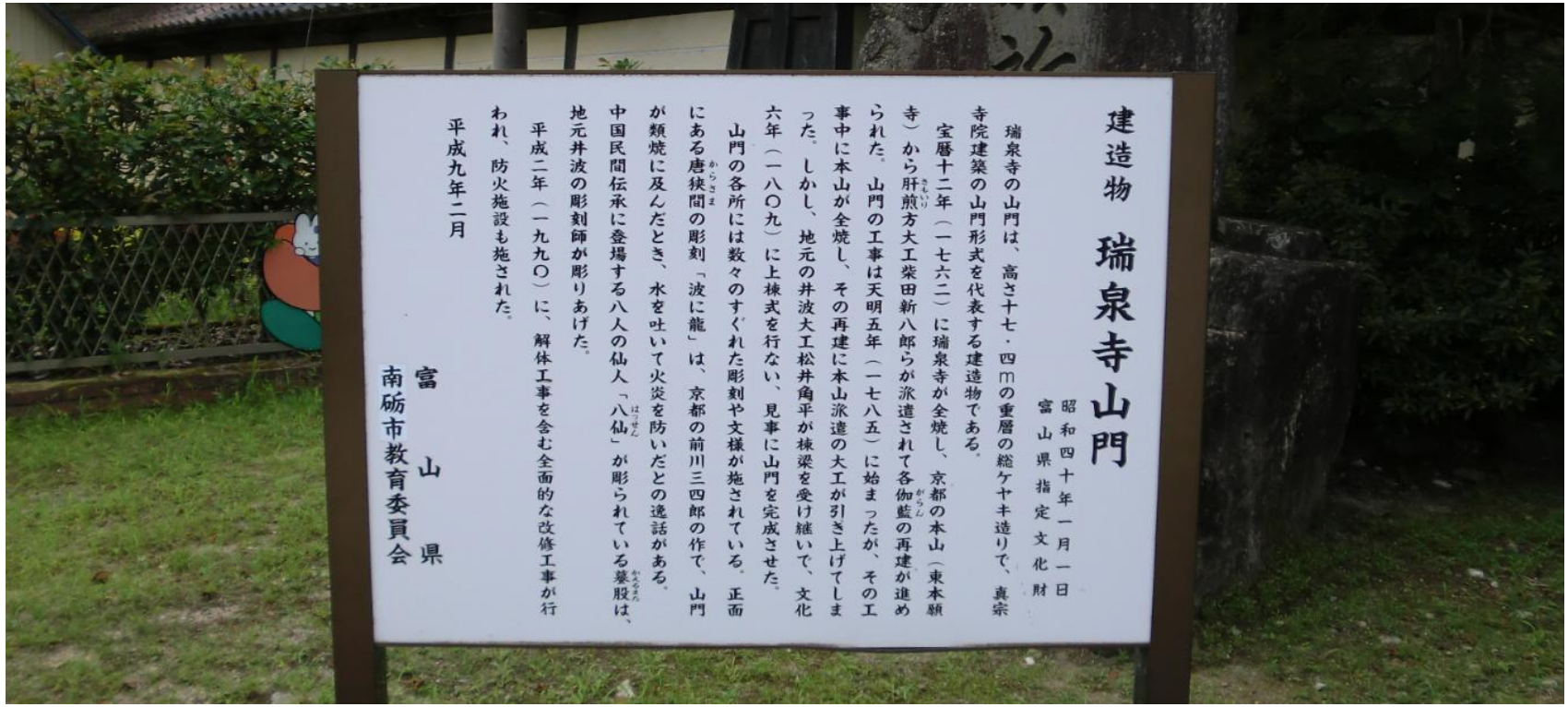
井波 瑞泉寺再建と松井の棟梁達

富山県井波町の瑞泉寺は、1390年（明徳元年）に創建された。その後、兵火や火災の都度再建され、今日にいたっている。

松井家は井波大工十人衆の1人として1596年（慶長元年）より再建工事に従事し、1788年（天明8年）に松井家第11代角平恒徳が山門工事の棟梁になり、第8代、第9代、第10代、第11代の4代が棟梁、現場の総指揮者、現場担当者、彫刻担当者として取組み、企業的組織の下に工事を完成させた。

現在の本堂は1885年（明治18年）に角平恒広（第13代）、太子堂は1918年（大正7年）に角平恒信（第14代）、鐘楼堂は1932年（昭和7年）に角平恒茂（第15代）が再建したものである。

大門(山門)/富山県指定文化財/再建1825年以降



建造物　瑞泉寺山門

昭和四十年一月一日
富山県指定文化財

瑞泉寺の山門は、高さ十七・四mの重層の総ケヤキ造りで、真宗寺院建築の山門形式を代表する建造物である。

宝暦十二年（一七六二）に瑞泉寺が全焼し、京都の本山（東本願寺）から肝煎方大工柴田新八郎らが派遣されて各伽藍の再建が進められた。山門の工事は天明五年（一七八五）に始まったが、その工事中に本山が全焼し、その再建に本山派遣の大工が引き上げてしまった。しかし、地元の井波大工松井角平が棟梁を受け継いで、文化六年（一八〇九）に上棟式を行ない、見事に山門を完成させた。

山門の各所には数々のすぐれた彫刻や文様が施されている。正面にある唐狭間の彫刻「波に龍」は、京都の前川三四郎の作で、山門が類焼に及んだとき、水を吐いて火災を防いだとの逸話がある。中国民間伝承に登場する八人の仙人「八仙」が彫られている蟇股は、地元井波の彫刻師が彫りあげた。

平成二年（一九九〇）に、解体工事を含む全面的な改修工事が行われ、防火施設も施された。

平成九年二月

富山県
南砺市教育委員会

正面は本堂

禁
煙

左が太子堂、右は本堂

正面が本堂、左は太子堂

正面が太子堂、左は宝物殿

正面が瑞泉寺会館、左は本堂

正面が太子堂、左は宝物殿

本堂/南砺市指定文化財/1885年再建(明治18年)

太子堂/南砺市指定文化財/1918年再建(大正7年)

本堂

太子堂

本堂

左が太子堂、右は本堂

左が大門、右は鐘楼堂

正面が宝物殿、右は太子堂

後小松天皇廟

太子堂

太子堂、奥が本堂

太子堂、奥が本堂

太子堂

太子堂向拝唐破風

太子堂

左が太子堂、右は本堂

左が太子堂、右は本堂

左から本堂、瑞泉寺会館、山門、鐘楼堂

左から太子堂、本堂、瑞泉寺会館、山門、鐘楼堂

正面が山門、右は鐘楼堂

左から山門、鐘楼堂、本堂

左が鐘楼堂、正面遠方は太子堂

鐘楼堂

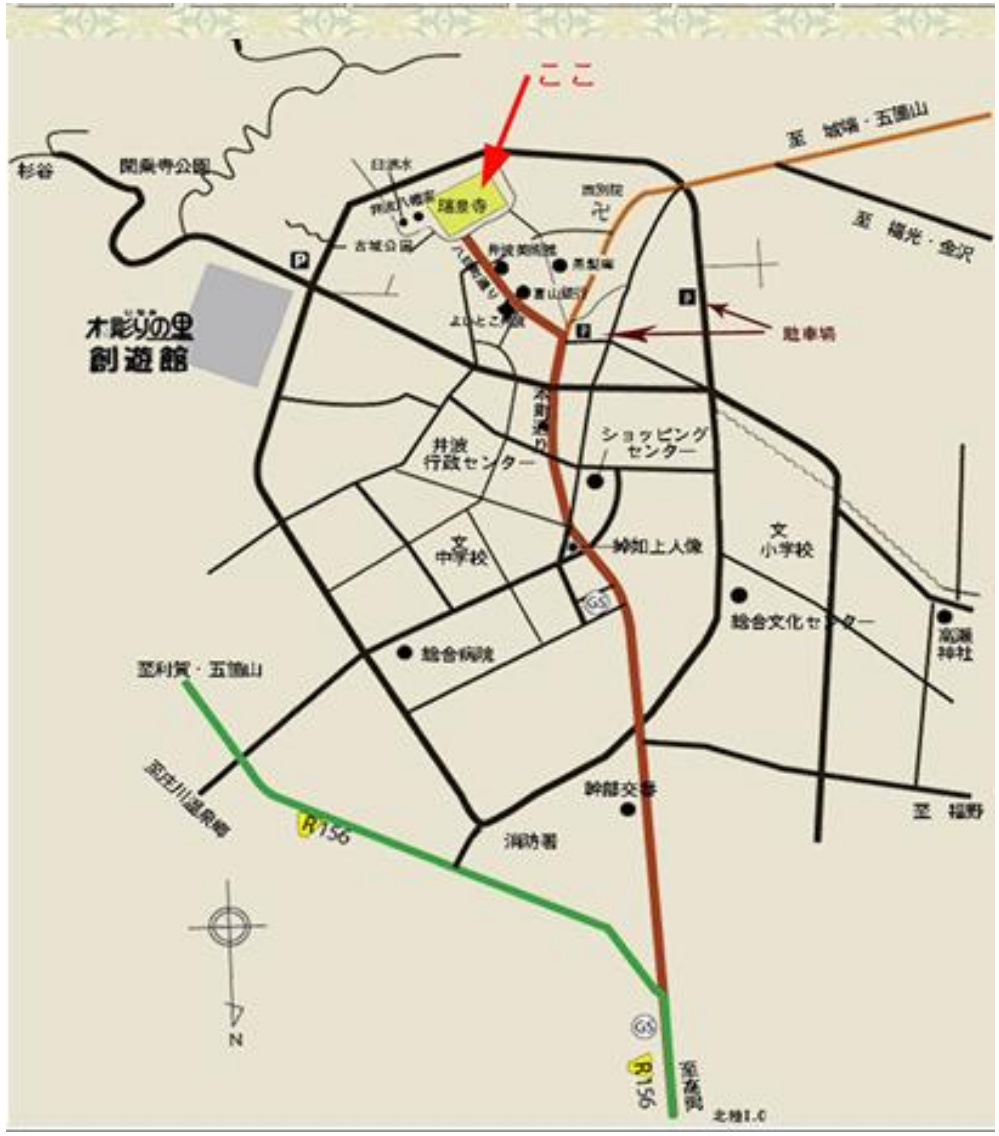
瑞泉寺会館

左が式台門、右は台所門

大楼壁

菊の門

太子堂内陣厨子


ここ
杉谷
関泉寺公園
日清水
井波八幡宮
瑞泉寺
西別院
古城公園
井波美術館
黒型編
蓮山観音
よしとこ観音
木彫りの里
創遊館
駐車場
井波
行政センター
ショッピング
センター
文
中学校
蛸如上人像
文
小学校
総合文化センター
高瀬
神社
総合病院
至利賀・五箇山
至庄川温泉郷
R156
蛸部交番
消防署
至 福野
至 城端・五箇山
至 福光・金沢
至高岡
N